（別紙4）　　令和　1　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1291200200		
法人名	株式会社　ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター河原塚		
所在地	千葉県松戸市和名ヶ谷9-2		
自己評価作成日	令和　2年　1月　16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和2年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様もより高齢になってきています。スタッフ数が少ない中で出来る範囲での散歩や地域の方々との触れ合い、またボランティアを呼んでの行事を行い、入居者様・ご家族様・スタッフ共に笑顔が溢れる明るいホームを目指して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ニチイケアセンター河原塚」静かな住宅地の中にある施設である。日頃から地域住民とあいさつを交わす関係を築いていると共に、町内会に加入し、町内清掃等の地域貢献を行う等、地域交流に努めている。また、歌・踊り・傾聴等のボランティアを受け入れており、入居者の楽しみや生活の活性化に繋げている。日頃から市や地域のグループホームと連携に努めており、運営推進会議や市のグループホーム協議会を通して、意見や情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で事業所理念を唱和して、スタッフ一同理念を共有して実践につなげている。	「誠意・誇り・情熱」と言う社是も掲げると共に、「認知症の進行を緩和し、安心して楽しく生活できるよう支援する」「地域と家族との絆、ふれあいを大切にしていく」を主眼とした施設独自の理念も明言している。理念については、事業所内の掲示・朝礼時の唱和・新人研修等を通じて、共有及び浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会の行事（クリーン活動等）に参加している。 ・毎朝の散歩時に地域の方々とご挨拶を行っている。 ・地域のボランティアの受け入れや定期的に見学会を行っている。	日頃から地域住民とあいさつを交わす関係を築いていると共に、町内会へ加入している。また、町内のクリーンデイに参加し、入居者と共にゴミ拾いを行う等、地域交流を図っている。歌・踊り・傾聴のボランティアの受け入れを通して、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の行事に参加している。 ・年1回お祭りを開催し、近隣住民の方をお誘いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月/回　運営推進会議を行い、状況報告や今後の活動について話し合い、内容をご家族へ送付している。	運営推進会議は市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会長・他グループホームの管理者・入居者・家族が出席し、2カ月に1回開催している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市に定期的に訪問や連絡をし、運営推進会議等を通じて交流を図り、情報を共有している。 ・研修等に積極的に参加している。	日頃から市に対して、業務における相談・報告を行う等、連携を図っている。また、運営推進会議開催時や市のグループホーム協議会に参加し、市や同業者と意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員ミーティングで身体拘束についての話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・外部研修に積極的に参加するよう努めている。	身体拘束排除における指針を整備していると共に、委員会を毎月開催しており、身体拘束の無い支援の実践に取り組んでいる。身体拘束排除及び虐待防止におけるマニュアルの整備や内部研修を実施し、職員への理解浸透に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・職員ミーティングで高齢者虐待防止マニュアルを読み合わせし、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 ・高齢者虐待防止スローガンを掲げてスタッフ一丸となって防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の研修で学び、また成年後見制度を活用している入居者様がいて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に説明すると共に契約時には個人情報の取り扱いや入居者の尊厳、提供するサービス内容等を読み合わせ理解をいただいた上で同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議2ヶ月/回や面会時に要望等を聞くよう努めている。 ・意見箱を設置して気軽に意見や要望を上げてもらえる様にしている。 ・相談・苦情受付窓口を設置している。	家族の訪問時・電話連絡・運営推進会議や家族会開催時を利用し、家族からの意見・要望を確認している。挙がった意見・要望等においては、会議・申し送り・連絡ノートを活用し、周知・検討を図り、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・1ヶ月/回の業務ミーティングにおいて意見・提案を聞いて反映させている。また、連絡ノートを活用して情報の共有を行っている。 ・グループホーム協議会に加入しており、意見交換等を行っている。	定期的に会議を開催すると共に、管理者が個別に職員と話をする機会を設け、職員の意見・提案等を確認している。また、内部研修の実施を通して、サービスの質向上にも努めている。	人員不足が事業所の課題となっており、行事や外出支援・外部研修の参加等に影響が出ている。今後、人員確保を行い、職場環境の改善を図ることに期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤、退勤時には出来る限り声かけをし、話しを聞くように心がけている。社外研修の案内、人事考課、シフト管理を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務ミーティング、職員研修の参加を推進し、社外研修についても積極的に案内を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、松戸市の研修や講演会への参加を積極的に行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接時にゆっくり時間をとり馴染みの関係を築けるように努め、入居時には面接に伺ったスタッフが迎え、安心できる環境を整えるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談、事前面接を通し、信頼関係を築きあげて本心を聞きだせるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の希望を確認した上で支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ得意なことを活かし、教えたり習ったりしながらスタッフと一緒に行うことで、役割意識や生きがいにつながる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のホームでの暮らしの要望等をお聞きするようにしている。面会や行事への参加を通して一緒に過ごし、支えあえる関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会も可能な限り来てもらい、今までの生活を継続できるように支援に努めている。	友人・知人の訪問を随時受け付けており、家族との外出・外泊も自由となっており、馴染みの人との関係継続に配慮している。また、希望に応じて、電話や手紙のやり取りも支援し、馴染みの関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々入居者に対し、会話や声かけを多く働きかけ、利用者同士でも安心して支えあえる環境づくりの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の生活暦を職員で共有し、本人主体の生活を送れるようにコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いている。	入所前に本人・家族から意向・身体状況・生活歴を確認していると共に、必要に応じて、医療機関や他サービス事業所からも情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議・申し送り・連絡ノートを活用しながら、職員間で情報を共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方をアセスメントシートを利用して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方等をアセスメントシート、介護記録にて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望、主治医の意見も取り入れ、スタッフ間でカンファレンス、担当者会議を実施し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画の作成を行っている。必要に応じて、医師・看護師の意見も取り入れている。	定期的または必要に応じた介護計画の見直しや、介護計画の評価が行われていない為、日常的な支援に影響が出ることが心配されます。定期的な見直し及び評価を行い、適切な支援に繋げていただくことを望みます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者別にケース記録をつけている。他にバイタル、排泄、食事摂取量、入浴等についても記録をとっている。特に気になる点等は連絡ノートを活用し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務ミーティング、担当者会議等でその時々に生まれるニーズについて話し合い、対応を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署立合いの消防訓練を年1回行い、1年に2回避難訓練を行っている。また自治会の行事に参加し、ボランティアの利用等を行いながら、安全に豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療の主治医が訪問診療に来てくれている。その際はスタッフが付き添い近況報告を行っている。また、体調の変化に応じ、随時適切な指示が得られ、安心できている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて職員も同行し、医師との情報交換を行っている。また、定期的に内科医及び歯科医の往診を実施しており、適切な医療支援を行っている。訪問看護師による健康管理の他、訪問リハビリによるマッサージを実施しており、身体機能の維持・向上に努めている。薬剤師による薬剤指導を受けた上で、適切な服薬管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護ステーションより看護師が訪問し、介護職員が情報や気付きを伝え、適切な看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、ご家族と通院されている入居者様には定期的にドクターへ状態の報告を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時にまず説明をしている。また、日々の健康状態を把握し、心身の状態に異変が見られた時は医療機関や家族とその都度連絡を取り合い、方針を共有している。	重度化した場合における対応に係る指針を整備していると共に、契約時に重度化・終末期における意向の確認書及び同意書を交わしている。重度化や終末期の支援が必要になった場合は、家族・医師等と相談しながら意向に沿った支援が行えるよう協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で緊急時の対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在6ヶ月に1回の避難訓練を行っている。 （年1回消防署立合い） 夜間想定の避難訓練も行っている。	スプリンクラー・自動通報機・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、年2回の消防避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会いの下、夜間想定訓練等を行っており、状況に応じた対応方法の確認を行っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・尊厳を守っている。特に既往症など個人情報の取り扱いには充分の配慮を行っている。 ・個人情報の書類は施錠可能な棚に保管し、個人情報の保護に努めている。	社内コンプライアンスを掲げ、職員への浸透を図ると共に、定期的に社内独自の確認テストを実施しており、個人情報保護・プライバシー保護に向けた取り組みを行っている。必要に応じて同性介助を実施する他、書類の個人名をアルファベット表記にする等、入居者のプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主に自己決定してもらえるような声かけを心がけ、散歩への参加、おやつの飲み物等選ぶ場面を積極的に作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを守りケアしている。起きる時間・食事時間も主のペースを守っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用している。 本人希望の化粧品等あればを確認し購入又はご家族に依頼して持ってきて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には積極的に参加してもらっている。 食器拭き・料理小分け等。	食事の準備や食器拭きを共同で行っている。献立作成は法人の管理栄養士が行っていると共に、食材は近隣業者に配送の委託をしており、旬の食材や栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、季節に応じた食事の提供や出前・誕生会等の実施により、入居者の食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	極力水分は取ってもらっている。 食事摂取量にむらがある方には工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりの口腔状態により口腔ケアの対応をしている。また、週1回訪問歯科に来てもらい、必要な治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するよう努めている。また、夜間ポータブルトイレの使用や定期的なトイレの声かけ誘導を行っている。	排泄チェックリストを活用し、個々の排泄パターンを把握すると共に、動作や状況に応じて、トイレ誘導・声掛けを行う等、適切な排泄支援に努めている。夜間においては、ポータブルトイレの設置やトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、食事及び水分摂取を工夫する他、看護師や医師に相談し、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談したり、飲食物の工夫や体を動かすように働きかけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・毎回入浴希望を聞いている。 ・入浴の希望やタイミングに合わせて、出来る範囲で対応している。	入居者の希望に応じて、回数や時間等を調整しながら、適切な入浴機会確保に努めている。必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施し、入居者の清潔保持に取り組んでいる。脱衣所に、トイレ・間仕切りカーテンを設置すると共に、必要に応じて同性介助を行う等、入居者のプライバシーに配慮した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせ入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでもすぐに見れる場所に置いてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を援助しながら、生きがいや役割意識を持てるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日その日の希望にそって散歩を行っている。また、初詣や花見等外出レクの機会を増やしていきたい。	日頃から散歩等、戸外に出る機会を設けている。また、ユニット間の交流や、施設敷地内で行われる活動により、外の空気を楽しめる場面をつくっている。	散歩支援は行われているが、人員不足により、外出行事等の外出支援が困難になっている。今後、人員の補強や家族等の協力により、外出の機会を増やし、入居者の生活の活性化を図っていただくことを望みます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は個人では所持せず、事業所で管理している。本人の希望で買いたい物がある時は本人のお小遣いを使用して買物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、本人希望をふまえ、随時対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を飾ったり、季節感を感じられる物を飾る等工夫している。	施設内は十分な介助スペースを確保しており、入居者の安全面に配慮した設計となっている。共有スペースには、テーブル・椅子・静養スペースが設置されており、入居者が自由にくつろげる環境整備がなされている。また、エアコン・加湿器・空気清浄機等を活用し、空調・湿度管理を行っている。その他にも、写真・作品・季節飾りを掲示する等、華やかで明るい雰囲気作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着く場所を把握したり、皆で楽しく過ごせる環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を居室に置いてもらっている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、ポータブルトイレ・テレビの設置や布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。その他にも鍵や収納が設置されており、入居者のプライバシーに配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺等を活用し、なるべく安全に自力で生活できるよう支援している。		